

2020年度テーマ いい人生だったと言えるように

ある先輩がメールで「今夜、孫娘が我が家に来ますが、いつもハグをするけど今はハグをすべきかどうか悩んでいます。消毒もマスクもしてあげよう」と言われメールは途絶え夜になりました。

中学生になっても大好きなおじいちゃんとハグをするお孫さんって可愛いっ！

ハグは出来たのだろうか？と気になり、翌日尋ねてみたら「二人の孫娘とハグしましたよ」とのこと。

あれもこれもダメではなく、ほんの少しの触れ合いで優しい気持ち溢れて笑顔の連載に繋がったのがその場にいないともわかりました。

日本人はハグが苦手でせいぜい握手だけど：先輩に今度会えたら、私もハグしてもらおう約束を取り付けたので(笑)

その日が来るのを楽しみに待っていていようと思います。

柴田由紀子

新旧運営委員あいさつ

総会でのご挨拶ができませんでしたので、通信でのご挨拶になりました。



富田多摩江（旧・会計監査）

監査をお受けし、20余年が過ぎました。皆さまの支えとご協力のお陰で大過無く今年度で退任させて頂く事になりました。

総会で皆さまのお目にかかり、定例の議事進行、ゲストのお話、皆さまとの交流と、充実した中にも和気あいあいの時間を共に過ごせたことを嬉しく思い返しています。毎回一輪挿し、お茶菓子の用意も心に残っています。

全会員の合言葉、「良い人生だったね。」の一日を共に分かち合うための優しいおもてなしでした。交流会での皆さまの体験談からも、多くを学ばせて頂きました。

役員の方々のご尽力で、会計帳簿も工夫され、各項目が正確に記入、処理され総会を4月に変更したことで、更に会計のメが明瞭になり、監査も順調に運んでおりました。

紙面上でのご挨拶になりましたが、長い間お世話になりありがとうございました。ホスピスケアを考える会の増々のご発展と会員の皆様の御ご健勝ご多幸を心よりお祈り致します。



服部里美（新・会計監査）

今回会計監査をお引き受けする事になりました。

この会とはもう随分長いお付き合いで、「たまたま箱」の資料集めに走ったり、縫い物をしたり、時にはパソコンに向かったり、本当にいろいろな事にがんばった記憶がよみがえってきます。

おかげで多くの事を知り、学び、気づかせていただきました。「知らない」という事がどれだけ悲しい事か、豊かな人生は、まず知る事なのだつくづく感じています。

どこかの誰かに「ボーッと生きてんじゃねえよ」と言われないように、もうしばらく、がんばってみようと思います。どうぞよろしく願います。

竹田美枝子（新・運営委員）

初めまして、幸田から参加させて頂いております、竹田です。宜しくお願い致します。

私と『岡崎ホスピスケアを考える会』との出会いは、10年以上も前確か中日新聞に載っていた記事だったかと思います。「ホスピスケア」の意味もよくわからない私でした。

これからも私なりに「3つのホスピスケア」について深めていけたら・・・と思っています。

私は今『今日の感謝と満足が明日の希望と光につながります』

ひろはまかずとし（蒲郡市出身）

という言葉大切にしています。

夜お風呂に浸かりながらこの言葉とともに一日を振り返っている今日この頃です。



今想うこと

磯山照江



私が主人を亡くしてから4年半経ちます。

やっと前向きに生活ができるようになりました。きっかけは主人が書いた多くの紀行文です。国内外の旅行1ヶ所1ファイルで40冊位になりました。長い間本箱に沢山置いてあってもどうにもやる気が出ませんでした。しかし高齢になり私の他にやる人がいない現実には重い腰を上げました。ところがやり始めたら内容を読んでいくうちに涙あり笑いあり楽しくて吸い込まれました。ファイル40冊位になりました。そのうちの1番スケールの大きいエベレストトレッキングを大学時代の主人の友人達に送りました。するととても反響があり手紙や電話のやりとりに追われ楽しい日々です。この結果は全く予期してませんでした。

皆さま各人にやることは別々です。その人の身の回りの事をトコトンやるとそこから別の展開があるのではという事です。おしまい



秋によせて

阿部啓子

つゆ草の青目に沁むる雨上がり新涼と言ふ日本語思う

一人居の家見守るか玄関やもりに守宮一匹夜毎訪づる

産卵の場所を探るか腹太き蠶とうろう螂枝先行きつ戻りつ

袖に付くヌスビトハギを取りながら万葉人もかく呼びにしか

名古屋より帰途の車窓に柿熟るる見つつ疲れをゆつくりほどく



“手縫い”の報告

愛知病院・市民病院・国際病院・施設へ依頼された品を作り届ける。
第2月曜日 10:00~12:00 場所 カトリック岡崎教会



手縫いの会より清拭布を頂いています有料老人ホーム「幸田の家」です。

使い古したシーツや肌着やTシャツなど綿の布地を長方形に切った物を100枚単位で一度に何百枚と頂いています。用途はおもにおしり拭きに使っています。寝たきりの利用者さんのお部屋に置いたり、お風呂場（脱衣場）で予期せず排便があったりするからです。各部屋にはウェットのおしり拭きが置いてありますが（これはサッと取り出して使える便利な点もありますが）おしり等を拭く時は冷たく、それに比べると暖かいお湯で絞った清拭布は、肌に優しく、気持ちもほっこりするようです。使い捨ての清拭布ですが、介護をしてもらう人には有難い物です。

何百枚も同じ大きさに切る大変さを思うと、手縫いの皆さんには本当に感謝です。ありがとうございます。今後ともよろしくお願い致します。（中川嵯汰子）

♥温かい布でおしりを拭いていただけるなんて嬉しいです。ありがとうございます。（勝川俊子）



緩和ケア病棟ボランティアの報告

緩和ケア病棟のあった岡崎市愛知病院が10月15日より新型コロナウイルス感染症の中等症及び軽症の高齢者を受け入れる病院、愛知県立愛知病院に変わるにあたり、緩和ケア病棟は岡崎市民病院に移転されるため9月12日にボランティア室の片付けをしてきました。密にならないこと、病院にご迷惑にならないこと換気を守りながら少人数でと言うことで、前代表橋詰さん副代表小野さんと、現在の副代表の神尾さんをお願いして一緒に会の物、今後市民病院の緩和ケア病棟で使用するものを仕分けして、エプソン等以外はほとんどお預けして来ました。緩和ケア病棟の橋本先生のお話によると来年の春には緩和ケア病棟を完成させたいとのことでした。完成後、またボランティアを再開できる日まで腕を磨いておいて下さいとの橋本先生のお言葉、青山ボランティアコーディネーターからもご連絡いたしますとのお言葉、看護師長さんからも長い間ありがとうございましたとお言葉を頂きました。2006年4月に緩和ケア病棟が開設されてからいろいろな勉強会を重ね、手縫いの会では素敵な小物を作ったり、2007年3月よりティーサービスのお手伝いをしてくださった方、手作りのお菓子を作ってくださいました方、同じ年の7月からはアロママッサージを開始してボランティアに参加してくださった方、皆さんにはとても思い出深い場所だったと思います。そして、応援してくださった会員の方にも改めてお礼申し上げます。ボランティア活動が再開できるようになったら“岡崎ホスピスケアを考える会”の皆さんにまたお願いしたいと言って頂けたことに感謝しながら、みなさんと笑顔でお会い出来る日が来るまで腕を磨いていたいと思います。(柴田由紀子)

“つどい”の報告

患者・家族・遺族（誰もが遺族）の集まり

第3木曜日 10:00~12:00 福祉会館（2階和室）

3月に新型コロナウイルスの流行が始まってしまい、緊急事態宣言も出て“つどい”も休止期間があり、家での自粛生活が続きました。その間に、とても心が辛い時期があり、眠れなくて心身ともに私のなかで持ちこたえられそうにありませんでした。たくさん本（グreekワーク）を読んでもみましたが、悲しみは消えず、こんな時“つどい”があつたらどんなに良いかと思いつつ個人的にある会員さんのお宅を訪ねさせていただきました。快く迎えていただき長時間話を聞いてくださり、救われた思いでした。

現在はマスク消毒手洗い（お茶は各自持参で）など予防対策をとり“つどい”は再開していただいております。

“つどい”をあらためて“大切な場”として痛感致しました。(神谷京子)

♥福祉会館が使用禁止にならない限り除菌・マスク・検温・3密を守りながら続けたいと思っています。(縄田昌子)



あとがき：皆さまから頂いた原稿を拝見し思ったことがあります。どんな状況の中でも変わらないのは「人を想う心」。皆さまのように、私もいつまでもその心を大切に持ち続けていきたいと思えます。今後も皆さまの声を届けたいと思っておりますので原稿のご協力をお願いします。(永谷美雪)